

「日向市史」の販売について

◎問い合わせ先・頒布場所

日向市立図書館 1階事務所窓口

宮崎県日向市春原町 1丁目 47番地

Tel : 0982-54-1919 Fax : 0982-54-5444 Mail : library@hyugacity.jp

◀休館日▶○毎週月曜日 ○毎月 1日 ○年末年始 ○特別図書整理期間



- (1) 『日向市史通史編』・『日向市の年表』
- (2) 『自然編』(既刊)
- (3) 東郷町民俗誌『山里に生きる 川里に暮らす』(日向市史別編)
- (4) 写真集『日向写真帖 家族の数だけ歴史がある』
- (5) 資料編『古代・中世・近世』(含棟札・金石文(板碑・五輪塔))
- (6) 史料編『正法寺年中日誌Ⅰ』
- (7) 史料編『正法寺年中日誌Ⅱ』
- (8) 史料編『美々津県庁文書Ⅰ』
- (9) 史料編『美々津県庁文書Ⅱ』
- (10) 史料編『三尾藤太郎日誌』
- (11) 民俗編『日向 光満ちるくにの生活誌』 **売り切れました**
- (12) 『東郷町史 通史編』
- (13) 『東郷町史 別編(郷土事典)』

(1)

◆『日向市史通史編』・『日向市の年表』

A 5判 函入り 上製本 本文 1,270 頁 頒布価格 4,000 円

※分冊での販売はいたしません



原始古代から市制施行 50 周年の平成 13 年までを、市内外の資史料を詳細に調査し、資史料に基づく詳細でわかりやすい編年体で叙述。

特に、これまでぼんやりとしかわからなかった中世・近世の市域の様子が面白い。

※既刊の市史 9 巻に収録した資史料（成果）を、平易にまとめた通史。

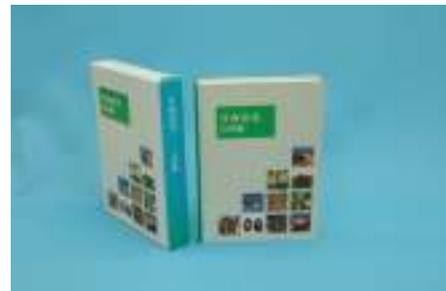
A 5判 叢書 350 頁

市内外の資史料の悉皆調査、金石分・棟札などにより、市域で起こった出来事をあますところなく収録。大事から身近な小事まで、いつ・どこで・何があったのか興味津々。

(2)

◆『自然編』（既刊）

B 5判 函入り 上製本 本文 271 頁 頒布価格 3,000 円



20 世紀から 21 世紀にかけての日向市域の動植物の詳細な調査記録。

付図（植生図・表層地質図・地形区分図）付。

地理的環境、植物、哺乳類・鳥類、両性・爬虫類、魚類、昆虫類、蜘蛛類、カニ類、貝類、干潟及び干潟に生息する生物、河川の底生生物の 11 章からなり、豊かな里山が広がる豊かな自然があますところなく紹介されている。

同調査で確認採取された動植物の目録も掲載。

※世紀末・始の状況を把握し、以後の環境の変化を知ることができる。

各種調査の元資料となる。

(3)

◆東郷町民俗誌『山里に生きる 川里に暮らす』

（日向市史別編）

A 5判 函入り 上製本 総頁数 440 頁 頒布価格 2,000 円



小丸川・耳川の本支流域に点在する各集落の生活文化の足跡を、顔が見える民俗誌として編集。旧町の一大事、江戸時代初期の「百姓一揆」や坪谷生まれの国民的歌人若山牧水が里人の心にどう生きているのかも記録。

(4)

◆写真集『日向写真帖 家族の数だけ歴史がある』

B 5判 函入り 上製本 本文 480 頁 頒布価格 3,000 円



家族アルバムで見る近現代の町や村の様子、そこに住む人びとの足跡を写真と回想で綴る。

※そこに生きた人々の顔の見える自治体史の編さん。

日向市域の戦前前後の大きな出来事を「おきよ丸大航軍」「マーケット」「新産都市の光と影」で見る。第 13 回宮日出版文化賞受賞。

(5)

◆資料編『古代・中世・近世』

(含棟札・金石文(板碑・五輪塔))

A 5判 函入り 上製本 本文 880 頁 付図

(日向市遺跡分布図) 頒布価格 3,000 円



日向市及び日向市周辺の原始・古代・中世・近世の資史料を収録。また、市内全域の金石分(板碑・五輪塔)、全ての神社の棟札を収録。

古代は日向国や臼杵郡に関する史料、中世は土持・伊東・島津・大友の戦、日蓮宗の名刹日知屋山本山定善寺に関する史料、近世は内藤家文書の中から海防関係・幕府領(天領)の関係、富高陣屋関係資料を収録し、大きく変化した幕末の様子を知ることが出来る。神社の棟札では、近世以降の地域の支配者の変遷、神社の新築・改築等が詳細にわかる。

(6)

◆史料編『正法寺年中日誌 I』

A 5判 函入り 上製本 本文 307 頁 頒布価格 2,000 円



昭和 55 年、日向市指定の有形文化財(古文書)

塩見中村の浄土真宗の名刹、峯金山正法寺の第 15 世住職細川宗慶が著した年中日誌。寺同士の廻状や富高陣屋からの諸触れ、幕末期の政情を伝える書状、地域の様子、そこで暮らす人々の動向に関する記録が収録されている。

御銚ヶ浦沖の小島(黒田家臣)で発見された死体の検分書や細島家捲き一揆の様子等が収録されている。万延 2 (1861) 年～明治 3 (1870) 年

※指定文化財を見る(読む)ことができないので翻刻(『同 II』も同様)

(7)

◆史料編『正法寺年中日誌Ⅱ』

A5判 函入り 上製本 本文 390頁 頒布価格 2,000円

※ 昭和55年、日向市指定の有形文化財(古文書)

塩見中村の浄土真宗の名刹、峯金山正法寺の第15世住職細川宗慶が著した年中日誌。明治新政や廃藩置県・西南戦争等が地域の人々にどう見えたか興味深い。巻末に『年中日誌Ⅰ』、『同Ⅱ』の索引(寺院名・人名・地区名等)を掲載した。明治3(1870)年～同13(1880)年まで。

(8)

◆史料編『美々津県庁文書Ⅰ』

A5判 函入り 上製本 本文 750頁 頒布価格 3,000円



美々津県に置かれた美々津県庁の公文書記録。

政府の指令や県庁の回答、旧県出張所からの願い、租税方法、美々津県から政府に対する伺いや願い、県庁日記、延岡と佐土原に置かれた南北郡治所が扱った兵員派遣・戸籍関係・人事・諸調査報告などが収録されている。

※廃藩置県後の県内の様子がわかり、地名である美々津が冠せられた県の資料。

(9)

◆史料編『美々津県庁文書Ⅱ』

A5判 函入り 上製本 711頁 頒布価格 3,000円

美々津県に置かれた美々津県庁の公文書記録

美々津県東京出張所との文書のやりとり、県庁が発した布告・達、美々津県内の役所や区長から県庁に提出された届け・願い・伺いなどを収録している。

(10)

◆史料編『三尾藤太郎日誌』

B5判 叢書 本文 388頁 頒布価格 2,000円



富高の素封家三尾家の当主、三尾藤太郎が綴った明治37年から昭和8年までの日誌の内、保存状態の良い17年分を収録。当時の三尾家の家族の様子や農業経営、地域の人々との交流などが細かく綴られている。

なお、素封家の農業経営をよりよく理解するために、明治36年、大正4年、大正15年の「人夫帳」を併せて収録している。

※明治から昭和にかけての篤農家の農業経営や家の様子をまとめた自治体史は全国的にも極めて少なく、研究資料としても貴重。

(11) **売り切れました**

◆民俗編『日向 光満ちるくこの生活誌』

A5判 函入り 上製本 本文 732頁 頒布価格 3,000円



日向市域の民俗事象、宮崎県（旧日向国）の精神史が綴られる。

「川と人びとのくらし」「石塔・石像が語るふるさとの歴史」「細島の民俗誌」「杵木の歴史と民俗」「富高と塩見の民俗神」「日向国における巡りの文化」「女性のくらし」「日向市の唄と芸能」「美々津手漉き和紙」の9章からなる。**※日向市域に生きた人々の生活文化の足跡を分かり易く紹介。**

特別寄稿として「光満つ夢のまにまに」と題し、「日向・ヒムカ・ヒムカシ」と名の持つ意味と共に綴られる県民必読の精神誌。地名・人名・事項等の索引を掲載

(12)

◆『東郷町史 通史編』

A5判 函入り 上製本 総頁数 1,300頁 頒布価格 1,000円



町制施行30周年記念事業として編さん。町内12区の全てを編さんの舞台とし、町民や町にゆかりの人々により執筆・刊行した手作りの町史。町制施行以後の現代を詳細に記録。

(13)

◆『東郷町史 別編(郷土事典)』

A5判 函入り 上製本 総頁数 660 頁 頒布価格 1,000 円

『通史編』執筆のために調査・収集した町内外の多くの資史料の内、通史で紹介できなかった郷土の先人や文化遺産、歴史資料を収録。『通史編』をより理解するための事典。「年表」や「郷土のことば」(方言)も収録。